

まもろうPROJECT

ユキヒョウ



ユキヒョウグッズに込めた願い

OUR WISHES INCLUDED IN THE GOODS

ユキヒョウは、世界で最も高い所に棲むネコ科動物。
気候変動や毛皮を狙った密猟などの影響で絶滅の危機にあります。
山岳生態系の頂点に立つユキヒョウは、生態系の維持に大きな役割を担っています。
ユキヒョウを守るためには何が必要でしょうか？
ユキヒョウグッズに込めた願い。それは、野生ユキヒョウが生息する国キルギス共和国（キルギス）の生態系保全と、密猟を減らすために、そこに住む人々の暮らしの発展の両方を目指すこと。
グッズの収益はこれら両方の活動に利用しています。そして、単なる寄付やエシカルではなく、クリエイターのデザインによって、愛されるものづくりを目指しています。

15 陸の豊かさも
守ろう



絶滅の危機にある
野生ユキヒョウや
同じ生息地で生きる
野生動物（生態系）の
保全活動・
保全研究を促進

1 貧困を
なくそう



5 ジェンダー平等を
実現しよう



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



10 人や国の不平等
をなくそう



ユキヒョウの
生息国キルギスで
暮らす女性たちや
村落部、
地域経済の活性化

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



12 つくる責任
つかう責任



動物園・野生動物の
保全団体や研究者・
地域団体・クリエイターが
力を合わせて取組みを実施





ユキヒョウは中央アジアの12か国にまたがる高山地帯に生息しています。生息地のほとんどが国境に位置しているため、中央アジアの「平和の象徴」ともいえます。しかし、温暖化による影響や、毛皮等を狙った密猟、家畜を襲われた遊牧民・農村民による報復殺により、絶滅の危機にさらされています。また、ユキヒョウは生態系の頂点に位置するため、ユキヒョウが絶滅すると、他の動植物の生息にも大きく影響を及ぼすと考えられています。

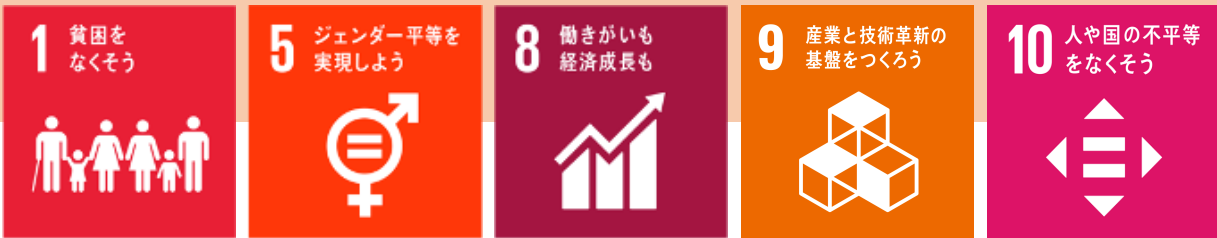
「まもろうPROJECT」では、現地NPO/NGOと共に、現地レンジャーの活動支援や、ユキヒョウやを含む野生動物の個体数調査、ユキヒョウの食性や繁殖状況の調査を実施しています。



ユキヒョウの推定生息地（オレンジ箇所）

IUCNレッドリストより：<https://www.iucnredlist.org/species/22732/50664030>





ユキヒョウの生息国キルギスで暮らす女性たちや村落部、地域経済の活性化

ユキヒョウグッズは、独立行政法人国際協力機構（JICA）が行う「一村一品プロジェクト（OVOP）」が協力する生産者グループにより制作されています。

キルギスでは、ソビエト連邦が崩壊した後、地方での仕事なくなり貧困問題が深刻化しました。特に、村落部の女性は、家事以外で外出する機会がなく、地位が低い状態に。OVOPは地域経済の活性化に取り組むため、手つかずの自然が残る山岳国キルギスならではの羊毛や蜂蜜などの素材を生かしたプロジェクトを開始しました。

地方行政の協力のもと、使われなくなった学校等を改装し職場に。それにより、遠くに出稼ぎに行く必要がなく、村で家族と暮らしながら、現金収入が得られる仕組みを作りました。また、衛生管理や貯蓄、コミュニケーションなど、女性達が様々なことを学ぶ勉強会も実施。

日本などの先進国の支援がなくても、現地だけで安定的にビジネスを生み出せるよう、生産者や人材を育成し、持続可能な社会づくりを目指しています。





全国の動物園（神戸どうぶつ王国・那須どうぶつ王国・盛岡市動物公園 ZOOMO）、野生ユキヒョウの研究者とクリエイターのユニット（twinstrust「まもろうPROJECT ユキヒョウ」）、キルギスで活動している野生ユキヒョウの保全団体（Snow Leopard Foundation in Kyrgyzstan）、羊毛商品でキルギスの女性達や農村部を活性化している地域団体（OVOP）、それぞれの専門性を生かしながら力を合わせて取組みを実施しています。

また、単なる寄付やエシカルで終わるのではなく、商品として、ずっと愛され続けるものづくりを目指しています。キャラクターからグッズまで広告のクリエイターがデザイン。生産においてはOVOPがトレーサビリティによる生産管理と丁寧な技術指導による品質管理を徹底して行っています。

ユキヒョウグッズを通して、
人々とのつながりが、保全の輪が、広がっていきますように。

